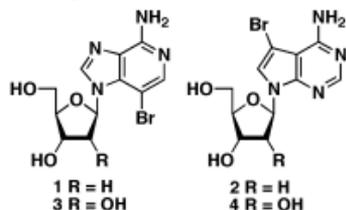


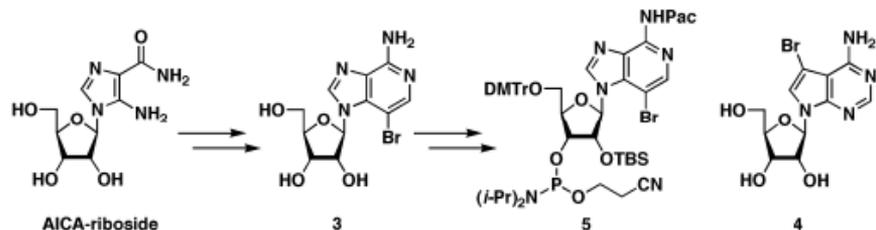
26H-pm02

プロモデアザアデニンリボヌクレオシド類を含む RNA の合成とその性質
○井手 志穂¹, 南川 典昭¹, 松田 彰¹ (¹北海道大学大学院薬学研究科・薬学部)

【目的】一般に、蛋白質が核酸と結合する際、塩基配列と共に核酸二重らせん構造の溝の形を認識することが知られており、その相互作用様式は実に多様である。当研究室では、2 種のプロモデアザアデニンデオキシヌクレオシド **1**、**2** を DNA オリゴマーへ導入し、これらが DNA-蛋白質間相互作用様式を解明するためのケミカルツールとして有用であることを確認している¹⁾。そこで本研究では、RNA-蛋白質間相互作用様式を解明するためのケミカルツールの創製を目指して 2 種のプロモデアザアデニンリボヌクレオシド **3**、**4** を合成し、RNA オリゴマーへ導入することを計画した。



【方法・結果】3-プロモ-3-デアザアデニン体 **3** は AICA-riboside を出発物質として当研究室で開発した方法^{2,3)}を基に合成し、RNA 固相合成に適用するためにアミダイトユニット **5** へと導いた。一方 7-プロモ-7-デアザアデニン体 **4** はグリコシル化法を用いて合成し、同様にアミダイトユニットを合成した。



これら両化合物を RNA オリゴマーへ導入し、その諸性質について述べる。